

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	太良町立大浦中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の家庭学習において、学習時間の確保と内容の充実に取り組む必要がある。今後は「eライブラリ」等を活用し、自発的な学習を促したい。</li> <li>・教職員の時間外勤務については、職員数の減少に伴う業務の適正化を図るために、各分掌間の連携と分掌事務の整理・統廃合を含めてさらなる見直しが必要である。</li> </ul>
2 学校教育目標	郷土大浦を愛し 強く 賢く 美しく生きる生徒の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強さの育成と挑戦できる機会づくり</li> <li>・主体的な学びを促す授業づくりと気づき考え実行する力の育成</li> <li>・立ち止まっただけの挨拶と無言掃除の徹底</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果
	取組内容	成果指標(数値目標)			
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○授業が分かると答える生徒の割合80%以上。	・西部型授業「考える」「考え合う」「振り返る」場面を書く活動取り入れた授業実践を行う。 ・「授業づくりのステップ1・2・3」の各ステップでのタブレット端末の有効活用を目指す授業研究会を行い、研究成果を共有する。	A	・「授業の時の先生の説明がわかる」と回答した生徒96.9%。校内研究や研究授業等で常に授業力の向上に努めている結果だと思われる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○友達や級友に対して思いやりのある言葉遣いや言葉かけを行っている生徒が90%を上回る。 ○道徳の授業や人権学習集会などで学習したことは自分の心の成長に役立っていると考えた生徒の割合が90%を上回る。	・生徒一人一人が、安心して学校生活が送れるような支援体制づくりを全職員で行う。 ・生徒の実態に応じた道徳の授業を、全職員で計画的に行う。 ・担当職員を中心に、人権学習集会を計画的に行う。	A	・98.4%の生徒が思いやりのある言動や行動ができていると回答した。 ・道徳の授業を通して人としての生き方を学んでいると答えた生徒93.9% ・確実に生徒は4月当初より成長している。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員がいじめ問題への対応や取組に対する、生徒評価、保護者評価で、80%以上	・毎月、生活アンケートを実施し、生徒指導主事を中心に全職員で生活面での問題の早期発見・早期対応につなげる。 ・生徒会と連携し、人権集会の開催や人権標語の作成などを通して、いじめをなくすための取組を行わせる。	A	・友達を差別したりいじめたりしないよう心掛けていると答えた生徒100%。 ・生徒数が少ない分、きめ細やかな生徒指導ができている。
	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上	○「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒70%以上	・キャリアパスポートを利用し、学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりさせ、自分の進路について意欲的に考えさせる。 ・構造的グループエンカウンター等を利用して自己肯定感や有用感を高める。	A
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「早寝早起き朝ごはん」できていると答える生徒80%以上	・生徒の意識・関心を高めるために、保健だよりの発行や検診内容に関する資料の掲示を行う。 ・健康診断の事後指導を丁寧に行い、その後も健康相談を継続的に行う。 ・生徒会の保健体育委員会を中心に感染症予防・健康維持についての定期的な働きかけや調査を行い、意識や行動の変化を確認する。	B	・朝ご飯を毎日食べる生徒96.9% ・早寝早起きの習慣ができている生徒69.3%。習慣ができていない。今後は家庭と連携をとりながら改善していかなければならない。 ・外部機関(民生児童委員等)と連携をとることも視野に入れ、生活習慣の改善を図りたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日を定時退勤日、部活動休業日とし、時間外に行事等を入れない。 ・業務内容を精選する。また、業務を分担し、一人に過重負担がないようにする。	A	・時間外在校時間は昨年度より月平均13時間減った。部活動終了後1時間以内で退勤している。
	○適正な部活動運営	○部活動休業日の設定と完全実施率100%を目指す。	・週2日の休業日の設定を体育主任を中心に徹底し、適正な部活動運営に対する共通理解を図る。	A	・部活動休業日は完全実施できた。 ・75%の職員が臨場し、技術・精神バランスの取れた指導をしている。 ・部活動指導員や外部指導者を活用し教職員の負担を減らしている。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果
	取組内容	成果指標(数値目標)			
○学校教育目標	○学校教育目標の周知・徹底	○教育目標「郷土大浦を愛し 強く 賢く 美しく生きる生徒の育成」と重点目標について、生徒及び保護者への周知率を90%以上とする。	・学校教育目標、重点目標について、校内に掲示すると同時に、学校だより、ホームページ等を通じて生徒、保護者への周知徹底を図る。 ・職員会議資料やPTA役員会資料に学校目標を掲載することで、職員とPTA役員等にも周知徹底を図る。	A	・97%の生徒が学校教育目標を知っている。保護者は81.9%である。保護者への啓蒙を更に進めなければならない。 ・学校だより以外の「たより」に学校教育目標を入れるようにする。
○郷土愛	○地域とともにある学校づくり	○「地域に誇りを持っている」と答える生徒の割合が80%以上	・ボランティア活動に積極的に参加させる。 ・保護者が行事に参加しやすい日程を設定したり、内容を工夫する。 ・地域支援コーディネーターを中心に、地域の教育資源や人材をいかした体験活動や講演会を実施する。 ・サービスマーケティングを行う。 ・HPを使って積極的に情報発信を行う。	B	・81.6%の生徒が太良町で生活ができて幸せであると答えている。 ・保護者が行事に参加しやすい日程を設定したり、内容を工夫する。 ・地域支援コーディネーターが積極的に関与し地域との橋渡しになってきている。 ・給食費や副教材費が無料であることを機会をとらえて生徒や保護者へ知らせ続ける。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・「授業の時の先生の説明がわかる」と回答した生徒96.9%であったが、授業については改善の余地がある。生徒の学習に取り組む姿勢をよりよくするために、学力向上コーディネーターや研究主任が中心となって工夫改善していく。 ・学校評価アンケートの結果をみると、生徒は充実した学校生活を送っている。職員が生徒一人一人のことを考えて教育活動に取り組んでいることがよくわかる。諸問題に対して学年・学校でいち早く共通理解を図り、組織的に取り組んでいる結果、明るく、落ち着いた学校づくりにつながっている。しかし、自己肯定感や自己有用感が低い。行事や生徒会活動を通して、自己肯定感や自己有用感を育む手立てをとらなければならない。 ・コロナ禍以降、地域や家庭と一体となった教育実践は難しいものがあった。「郷土愛」を育むためには、PTAと一緒にボランティア活動を行うなど、新しいことを実践しなければならない。</p>
----------------	---